



院長のご近所探訪

～旧安田庭園編～

両国駅から徒歩5分ほどのところにある旧安田庭園は、常陸国笠間藩本庄松平氏の屋敷があった場所で、元禄年間に造営されたと伝えられています。その後、安田財閥の創業者の所有となり、大正十一年に東京市へ寄付されました。現在は墨田区に移管され、全面的改修を行い、開園されています。



年頭所感



新年、明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、令和になって初めてのお正月を穏やかに過ごしのことと思います。2020年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピック開催の年であるとともに、当院が平成2年5月に開院してからちょうど30年となる記念すべき節目の年となります。ひきつづき本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて当院の365日リハビリテーション訓練体制は、おかげさまで順調に推移しており、医業収入も右肩上がりが増加しています。さらに昨年の6月からは回復期全病棟で診療報酬の最も高い回復期リハビリテーション病棟入院料1を取得することができ、5階病棟では体制強化加算2も算定できるようになりました。しかしその影響で重症度の高い入院患者さんが増加しており、病棟看護師をはじめスタッフの皆様には御苦勞をおかけしていることと思います。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

つぎに今後の事業展開ですが、当院が都内12保健医療圏にある地域リハビリテーション支援センターのさらに中核、いわゆるセンターオブセンターの役割を担うため、都庁で開催される連絡会事務局を担い、4月より本格的な

活動を開始します。具体的には都全体のリハビリテーション医療のレベルアップに貢献することであり、そのためには当院とともに地域のリハビリテーション発展のために貢献できる協力病院の活動を援助する必要があります。また、セラピストのレベルアップのために当院スタッフによる教育研修の専門教材の作成も期待されています。

今年は武原リハビリテーション部長を中心とした医師と作業療法士による就労支援強化プログラムの実施や自動車運転専門外来の充実、さらには新たな院内組織である療養支援室の社会福祉士や看護師による退院支援にも力を注いでいく次第ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

超高齢化社会となった我が国では、急性期医療から在宅復帰へとつなぐ役割を担う回復期医療の需要がますます増えてくるものと思われます。当院の使命は、運営理念に掲げてありますように、医療のみならず福祉・介護との連携推進を図ることであり、さまざまな職種のスタッフによる連携を充実させてこの使命を果たしていく所存であります。

結びとしまして今年一年、皆様方におかれましては、健康に十分ご留意の上、ますますご活躍されることを祈念申し上げます。



院長 新井康久

運営理念

リハビリテーションを通して患者さんが生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療を提供し、福祉・介護との連携推進をはかる。



PT室のレッドコードについて

リハビリテーション部 理学療法科 主任 **佐藤 義尚**

今回は、当院理学療法室にあるレッドコードというリハビリテーションマシンの紹介をいたします。

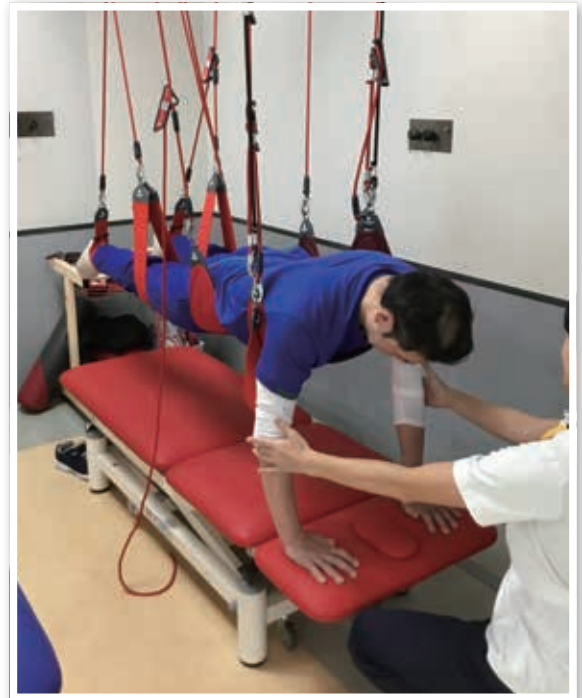
レッドコードはノルウェー発祥のマシンで、当院には4年前に導入されました。そのレッドコードは、身体をスリングで吊ることで、選択的な筋のリラクゼーションや、収縮を引き起こすことができると言われております。簡単に言いますと、ハンモックのように体を吊りし、ユラユラと筋肉をほぐし、リラックスするように使うこともできますし、摩擦を無くせるので、筋力が衰えていても楽に身体を動かす練習を行うことも、反対にユラユラした中で、しっかりと筋力を発揮して安定して使うような練習を行うこともできます。セラピストの考えに沿って色々な使い方ができ、難易度や負荷の設定も細かく調整することができる画期的なマシンです。そのため、筋力が衰えてしまった患者さんから、プロ選手として活躍するトップアスリートまで、全世界で幅広く使用されております。

レッドコードの研修会では**Low-Tech, Hi-knowledge**なマシンと習います（コンピュータやロボットは使わない機器だが、豊富な知見が得られ、使い方は無限大）。

当院では臨床上の治療に用いるだけでなく、今年度からは治療効果についての院内研究も行っております。もし機会がありましたら、是非レッドコードを使ったトレーニングを体験してみたいはいかがでしょうか。

※院内研究 佐藤義尚 他：Redcordを用いた立位重心移動練習の効果検証（東京都リハビリテーション病院倫理審査委員会受付番号：12）

※写真は患者さんご本人に同意を得て掲載させて頂いております。



体幹や足をスリングで吊って行う
 肩関節の筋力トレーニング



レッドコードを用いたバランス練習
 ＊レッドコードで吊っているため、絶対に倒れません。

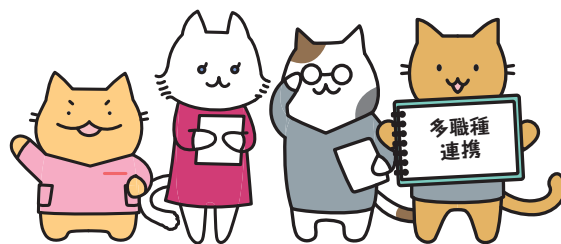


四肢や頭をスリングで吊って行う筋肉のリラクゼーション練習

看護部の取組み

～あれ&これ～ご紹介

Vol.9



～チーム医療から多職種連携 ワンチームへ～

私が病院に就職した頃は、在院日数は3ヶ月位でした。2～3ヶ月経つと主治医が「そろそろ退院を考えましょう。」と説明し、自宅に帰る方は家族に退院日を決めてもらっていました。また自宅に退院できない方はそこからMSWが転院先を探していました。看護師は退院に際して薬と外来受診について説明するくらいで、現在のようない退院支援はしておらず、当時医療は医師と患者で完結していました。

あれから40年、我が国では高齢化が進展し、疾病構造の変化、家族形態の変化、介護保険制度導入等により医療が病院完結型から地域完結型に、そして地域包括ケアシステムの構想が打ち出され、現在は地域包括ケアシステムの構築が急がれています。

急性期病院では在院日数の短縮に向けて開腹手術で入院しても、入院翌日に手術をし、術後は2～3日で退院、「抜糸は外来でします。」と言うことが当たり前になっています。

また、現在は入院時に退院後のことも確認するようになりました。

平成22年に厚生労働省から「チーム医療の推進について」報告書が出されました。その頃はすでにクリニカルパスが盛んに活用され、クリニカルパスが導入されたことでチーム医療も進みました。チーム医療は質の高い医療の提供と限られた医療資源の有効活用があると思います。さらに、診療報酬でチーム医療の実施を評価するようになりました。褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、排尿ケアチーム等、多職種でチーム構成することが算定要件となり、どこの病院でもチームを立ち上げ定期的な活動をするようになりました。

さて、チーム医療と多職種連携は何が違うのでしょうか。

チーム医療も多職種連携も同じと考えても間違いはないのですが退院支援においては多職種連携が当てはまるのではないかと考えます。

当院は回復期リハビリテーション病棟入院料1の診療報酬を算定しています。算定要件で在宅復帰率7割以上の実績を求められていますが、当院の実績は8割以上になっています。

看護部では平成29年度から退院支援研修を行い、看護師の退院支援能力の向上を図っています。研修の最後に自分が退院を支援した事例をまとめて発表してもらいます。

どの事例も退院支援において、医師をはじめ、PT、OT、ST、薬剤師、栄養士、MSW、ケアマネジャー、訪問看護師、ヘルパー、業者（福祉用具、配食弁当）などの職種が関わっていました。インスリン自己注射の確立に向けてOTで注射器の目盛り合わせの訓練や手の失調に対して手の固定を工夫をしたり、PTがヘルパーに歩行介助の注意点を指導したりと、多職種連携で退院支援を行っており、当院は多職種連携が進んでいると実感しました。「地域包括ケア推進の鍵となる多職種連携」と言われていることもあり、ますます多職種連携を強化する必要があります。今後もセクショナリズムを持つことなく「東京都リハビリテーション病院ワンチーム」で取り組んでいけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



看護部長 竹下礼子

高次脳機能障害支援 コーディネーターについて

江戸川区地域活動支援センターはるえ野 作業療法士 松本 直之

皆様、こんにちは。東京都リハビリテーション病院にて高次脳機能障害支援コーディネーター（以下、支援コーディネーターと略す）として活動している作業療法士の松本直之です。現在、私が月2日、同じく作業療法士の安部恵理子が月1日、支援コーディネーターとして活動しています。今回は、私たちの取り組みをご紹介します。

ところで、「高次脳機能障害」という言葉は、ご存知でしょうか。交通事故や頭部のけが、脳卒中などで脳が部分的に損傷を受けたため、注意・集中力の低下、新しいことが覚えられない、感情や行動の抑制がきかなくなる、思い通りに言葉が出てこない等、生活に支障をきたし、生きにくさが生じる障害です。

しかし高次脳機能障害は、適切な支援を受けることで、ゆるやかに回復をしていきます。家族も含め、医療・福祉・介護などの専門職が継続的に連携を取りながら、支援していくことで、再びその人らしい生活を送ることができるとも言われています。

東京都では、平成18年度から東京都心身障害者福祉センターを中心に高次脳機能障害者の連携体制についての協議や情報交換を進めておりました。当院も、墨田区・江東区・江戸川区で構成される区東部保健医療圏域で、平成24年度より東京都から高次脳機能障害支援普及事業「専門的リハビリテーションの充実事業」を受託し、支援体制の構築を進めています。その事業の一つとして、平成29年度から当院に支援コーディネーターを配置する

ことになりました。

高次脳機能障害者の気づかれにくい問題として、「在宅生活をしているが、必要な支援を受けられていない」、「周囲から高次脳機能障害の理解が得られず、孤立してしまう」、等の多岐にわたる問題があります。身体に麻痺等の後遺症がない場合もあり、一見するとその人の困難さが周囲には伝わりづらいことが要因となっています。その際に、私たち、支援コーディネーターは病院から地域に出向き、医療や福祉などの関係機関の切れ目ない支援や連携促進、地域の支援力の向上をお手伝いします。

具体的には、支援機関が関わるケースについて、助言や情報提供をし、必要に応じて同行訪問も行います。また、各区内の高次脳機能障害に関する講習会の開催等も行っています。

まだ始まったばかりで、試行錯誤しながらの活動です。高次脳機能障害者の支援で、お困りの方がいらっしゃいましたら、下記の連絡先にご連絡ください。一緒に支援の糸口を探させていただきます。よろしくお願いいたします。

高次脳機能障害支援相談窓口

(医療福祉連携室 地域リハビリテーション科)

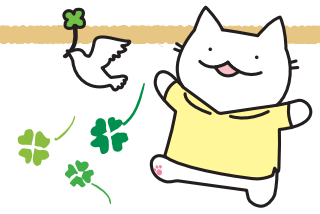
TEL : 03-3616-5963

MAIL : rihanokouji@tokyo-reha.jp





医療福祉連携室だより



地域リハビリテーション支援センターの連携強化に向けた取組を開始しました。

地域リハビリテーション支援事業は、おおむね二次保健医療圏ごと（12か所）に設置された地域リハビリテーション支援センター（以下「支援センター」という。）を拠点として、地域において様々な形態で実施されているリハビリテーション事業の支援を目的として、平成13年度から東京都が実施している事業です。

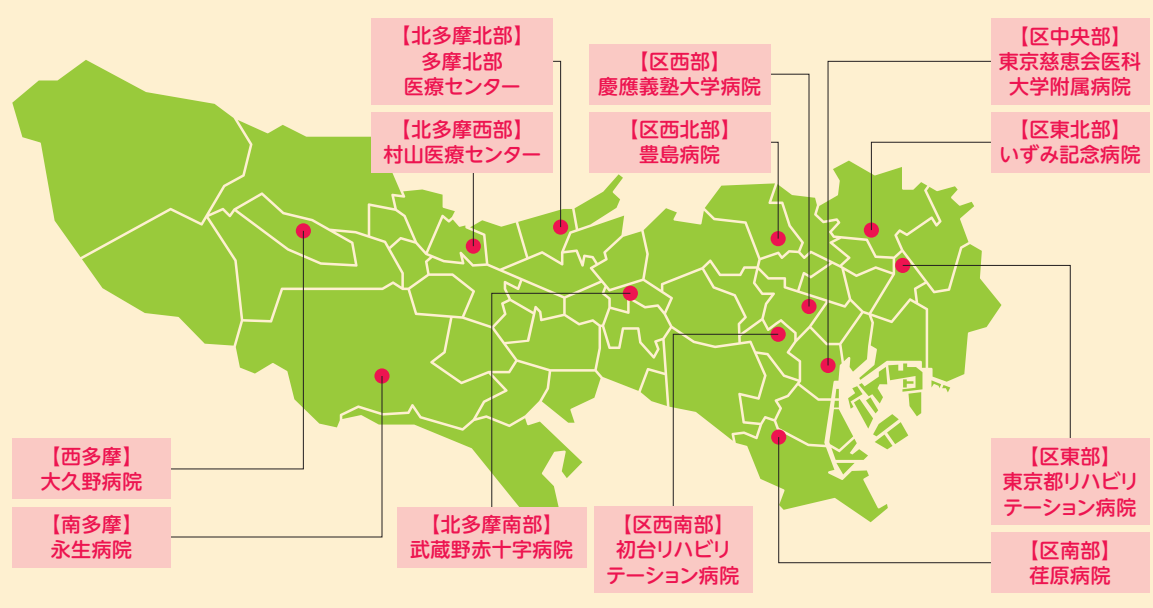
当院は、リハビリテーション医療の専門病院として、区東部圏域の支援センターの指定を受け、専門的立場から当該事業を実施し、保健・福祉活動を支援しています。今年度から支援センター相互の連携強化のため、都内全センターの中核的役割を担うこ

ととなりました。

今後、当院の機能強化とともに、都内における地域リハビリテーションの課題の分析・検討の上、解決のための取組を推進する予定です。

東京都リハビリテーション病院は、これからも住民や専門職の方が、リハビリテーションについて気軽に相談することができ、また活用できる環境づくりに努めてまいります。

「東京都福祉保健局ホームページ」
支援センターの詳細につきましては、「東京都地域リハビリテーション支援センター」で検索、または以下のURLをご参照ください。



令和元年度 高次脳機能障害支援普及事業 「専門的リハビリテーションの充実事業」研修会予定

① 精神科からみた高次脳機能障害

講師 埼玉県高次脳機能障害者支援センター 支援センター長 医師 先崎 章 氏

対象者 墨田区、江東区、江戸川区中心 PT・OT・ST・看護師・ケアマネジャー・地域包括スタッフなど、医療福祉介護等職員 日時 令和2年2月26日（水）18:30～20:30 会場 ティアラこうとう 中会議室

定員 60名 費用 無料

※参加には事前のお申し込みが必要です。開催日が近くなりましたら、関係施設様へのご案内をFAXにて通知いたします。今までFAXによる開催案内の通知がなく、ご参加希望される場合やお問い合わせがある場合は、区東部地域リハビリテーション支援センター事務局（TEL:03-3616-8600 内線376）までご連絡ください。



— REHA NEWS —

ニュース イベント

祝！！自衛消防訓練審査会「最優秀賞」・「優秀賞」受賞！！

今年度の自衛消防訓練審査会は、昨年8月から9月にかけて、向島消防署管内の21事業所、全25隊の自衛消防隊が参加し、各事業所において審査が行われました。当院からは男性隊3名・女性隊3名が審査に臨み、見事に**男性隊が「最優秀賞」、女性隊が「優秀賞」**を受賞しました！

訓練想定おける数多くの動作とセリフを正確かつ機敏

に遂行して生まれた一体感は、まさにONE TEAM！

都リハ自衛消防隊の皆さん、多忙な業務の合間の事前訓練と影の練習お疲れ様でした。今後も当院職員の防火防災に対する意識向上の牽引役として頑張ってください！

庶務係 中島裕司



審査後、向島消防署消防の消防隊員と記念撮影

＜自衛消防隊＞写真右から：

黒澤理恵（事務室）、庄司星（看護科）、會田真梨（理学療法科）、
笹野伸斗（作業療法科）、青木優（言語療法・心理科）、吉澤光瑠（理学療法科）



昨年11月、向島消防署で行われた表彰式にて。
当日出席できなかった隊員の代理で賞状を受け取り嬉しそうな院長。

都リハ対東京都医師会で野球大会を行いました。

昨年11月1日、浅草リバーサイド野球場において、東京都リハビリテーション病院職員と公益社団法人東京都医師会職員が令和初の交流戦を行い、10対2で当院が大勝しました！試合後は懇親会のビールで乾杯！ノーサイド！



始球式を行う新井院長



都リハチーム

写真撮影：坂本 萌子

新入職員紹介

名前 フリガナ

- 1 所属・職種
- 2 出身地
- 3 好きな言葉
- 4 趣味
- 5 一言コメント



診療部 診療科

南 朝香 ミナミアサカ

- 1 診療科 医師 10月1日付
- 2 青森県
- 3 ぼちぼちでんな
- 4 能楽・金春流、舞台芸術
- 5 リハビリの主役は患者さんご自身です。それをお手伝いするのが私の仕事だと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



リハビリテーション部 言語療法・心理科

関 友絵 セキトモエ

- 1 言語療法・心理科 言語聴覚士 11月1日付
- 2 群馬県東吾妻町
- 3 案ずるより産むが易し
- 4 ライブ観戦
- 5 早く業務に慣れ、患者さんの役に立てるリハビリを提供できるように努めていきます。至らない点も多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。



塚本 康司 ツカモト コウジ

- 1 診療科 医師 10月1日付
- 2 兵庫県三木市
- 3 実るほど頭を垂れる稲穂かな
- 4 創作活動（小説、イラスト、絵本など）
- 5 リハビリテーションを通じて患者さんの生活や人生に寄り添えるように、日々の仕事に取り組みたいと思っています。



看護部 看護科

阿部 正美 アベ マサミ

- 1 4S病棟 看護師 9月1日付
- 2 北海道
- 3 選ばなかった未来は最悪だと思え。
- 4 特になし
- 5 自分にできることを一生懸命がんばります。よろしくお願いいたします



都リハ Vol.4 人のご紹介

このコーナーでは、当院に縁の深い方をご紹介します。

リハビリ経験のある私がリハビリ部助手として働いています！

Q 自己紹介をお願いします。

A 友谷信明です。2年前に発症し、都リハには3か月間入院していました。今年の7月から働いています。趣味は磯釣り（石鯛）です。

Q 現在どのような仕事をしていますか。

A 訓練室の清掃や訓練道具の作成、整理整頓です。

Q 約半年間働いてみての感想をお願いします。

A 最初は正直不安だらけでした。病院での仕事経験がない上に、元患者の僕が相手にしてもらえるのかと。でも皆さん丁寧に教えてくれて、沢山の人が僕を支援してくれているのを実感し、今は患者さん・スタッフの

為に頑張る毎日です。僕自身リハビリ生活を経験しているので、皆さんが快適に過ごせるようにと思っています。

Q 同じように仕事をを目指す方々へメッセージを！

A サポートしてくれる方々を信じて良いと思います。必ず自分にとって良い道が開けます！今は「人の役に立てている」というやりがいを感じて仕事を頑張っています。

<最後に作業療法科長から一言>

高次脳機能障害者の雇用促進が進まない中、当院では障害者雇用に前向きに取り組んでいます。友谷さんは入院外来のリハビリ訓練の後、令和元年7月1日付けでリハビリ部助手として採用されました。清掃や訓練道具の整理整頓等の業務を行って頂き、いつも気持ちよくリハビリができる環境を作ってくれてとても助かっています。



リハビリテーション部 助手 友谷 信明

車の運転は入院前と同じ状態にならないと再開できないのかなニヤ?



身体状況が変化しても

運転が再開できる場合もあるよ



片麻痺の場合ならハンドルや方向指示器の取り付けを工夫したり



アクセルペダルを左側にすることで左足での運転を可能にできるんだよ

すごいけど、おリハにゃんは、それってなんだか、難しいぞニヤ...



リハにゃんくんはともかく...



日常生活を送る中で運転が必要な方はたくさんいるよね

そういった方が安全に運転再開できるように

～訓練のようす～



ニヤーるほど! 都リハでは患者さんが退院後に運転再開できるよういろんな工夫しているんだニヤ

運転再開に必要な認知機能ってなんなのニヤ? 次回聞いてみよう!



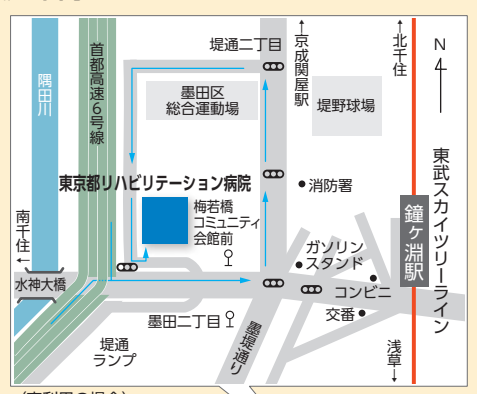
※自動車運転再開について当院ホームページをご覧ください

この3つの目安に達した場合、運転に特化した評価を実施しアドバイスなどを行っているんだ



視野欠損がないか
屋外歩行ができる(補助具は使用してもよい)
身の回りのことが1人でできる

交通案内



- JR山手線
- JR総武線快速
- JR中央線・総武線各駅停車
- JR中央線快速
- 東京メトロ千代田線
- 東京メトロ半蔵門線
- 東武スカイツリーライン
- 東武亀戸線
- 京成本線



南千住	都営バス	10分	梅若橋コミュニティ会館前	徒歩	2分
錦糸町	都営バス	25分	墨田二丁目	徒歩	4分
浅草	東京メトロ半蔵門線	12分	鐘ヶ淵	徒歩	7分
亀戸	東武亀戸線	20分	京成関屋駅	徒歩	15分
北千住	東武スカイツリーライン	5分			
京成上野駅	京成本線	12分			

東京都リハビリテーション病院

※東京都リハビリテーション病院は、東京都が設置し、公益社団法人 東京都医師会が指定管理者として運営を行っている病院です。



東京都リハビリテーション病院 広報委員会
〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1
TEL: 03-3616-8600 FAX: 03-3616-8705
<http://www.tokyo-reha.jp/>



UD FONT
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

2020年1月1日(水)発行

編集後記 旧安田庭園は、かつて隅田川の水を引き、潮の満ち引きにより水位が変化する汐入回遊式の庭園です。現在はポンプを使用することで人工的に汐入が再現されています。園内を散策すると、様々な風景を楽しむことができました。入園料が無料となっており、気軽に訪れることができます。